

表現の自由と市民活動を行政が排除することについて

小室 さいたま市で、集团的自衛権容認に反対する俳句を公民館だよりに掲載することを拒否しました。また、国分寺市では恒例行事となっていた祭に、行政が参加条件を変更したため「9条の会」が参加できなくなりました。これらの行政の対応が、表現の自由の侵害だという声が上がっています。市長の見解をお聞きします。

市長 憲法9条を守って行政運営していくことは当然ですが、憲法改正も規定されており、公務員としてどちらかに酌みするべきではないと考えます。

小室みえこのコメント

現時点で、憲法改正案が提出されているわけではありません。いろいろな意見を議論する場を応援することが、自治体として当然ではないでしょうか？



市議 小室みえこ

野田市の平和行政への取り組みについて

小室 今夏もピースサイクルの団体が野田市を訪問されました。団体から回答を求められた集团的自衛権関連について「野田市としては憲法前文に謳った平和主義、国際協調主義及び第9条の理念に則り、今後も平和行政に取り組んでいく。」とあったそうです。しかし、平和や戦争を伝える展示や活動を企画してきた団体への後援は行ってきませんでした。市報への掲載を依頼しても後援がとれていないため掲載が叶わない状況が続いています。このような環境が変わると期待してもよいでしょうか？

市長 憲法9条を変えてはいけないこと、具体的な法律の変更が動き出したら、それはおかしいと言いつついかなければなりません。行政が後援を出すということは、賛同するということと個人としては改正には反対だとしても行政を運営する主体としては違ってくるということです。

小室みえこのコメント

憲法9条を守り、集团的自衛権に反対の見解を示されたことは評価します。市民と同じ思いで平和を守る活動に取り組んでほしいと強く思います。

介護保険制度改正

野田市の

取り組みは安心をもたらししてくれるの？

小室みえこのコメント

「年を取っても安心して生活したい」という思いは、誰もが抱く願いです。改正は延命策ではないように思われ、社会化は遠のくばかりです。改正に伴い、要支援1・2の事業は自治体が担うことになりました。老いることは他人事ではなく、このまちで暮らし続けるための制度づくりは待たないの状況です。本気で取り組みないと安心が望めません。

75歳以上の人数	2000年 介護保険開始当時	2014年4月 現在	2025年 推計
全国	900万人	1,400万人	2,000万人
野田市	8,400人	16,064人	30,326人

野田市は平和事業を積極的にやっている？

この夏、根本市長の憲法に対する発言を大変評価する声があった。ピースサイクルという平和グループが毎年自治体を訪ね、憲法や平和事業などについて聞き取りをし、訴えを行った時の報告の中でのことだ。東葛地域を回ったグループに対して、野田市長は「憲法前文、九条の理念に沿って積極的に平和行政をやっていく」と言い、グループは野田市長の姿勢は素晴らしい、東葛で群を抜いていると評価したという。

私は野田・九条の会の活動に賛同し、毎年夏に中央公民館で行う「平和のつどい」にも参加している。「市民による平和と戦争を考える集い」に対し野田市の後援をお願いしても市長は後援を拒否、あげく市報の催し物の案内さえ、後援していないから「の理由で掲載してくれない。また、市の主催の平和事業も何をやっているかすぐに伝えられる市民はほとんどいないのではないか。」

憲法前文は、平和主義の理想を掲げ、その達成のために全力を挙げると謳っている。これに沿って取り組むと言うのなら市民と共に自治体もこの理想に向かって過去の歴史を学び、平和を実現していくための努力をともにしていくべきだろう。

今年の野田市の平和事業、実のあるものに期待する。
(平和を希求する市民)